

京の伝統文化体験授業

— 装束着付け体験記 其の参 —

「十二単」に代表される平安装束のポイントは、なんととってもその「^{かさね}襲」の色目の美しさ。
平安貴族たちは、装束の色で季節感を表現していました。今回の装束は「^{こうばい}紅梅の襲」。



上に重ねる着物ほど袖が短くなっており、襟元だけでなく袖口からも
たくさんの色の重なり（^{かさね}襲）の美しさを楽しめます。

ここがポイント！

着るのは手間がかかる十二単も、
脱ぐときは一瞬！！^も襲の紐を
ほどけば、全ての着物を
一度に脱ぐことができます。



「^も襲」をほどいたあと、人が脱いで抜け殻になったような装束の様から、
「**もぬけ（襲抜け）のから**」という言葉ができたといわれています。
脱いだ後の装束を整えると、まるでまだそこに人がいるかのようです。

質問コーナー

最後に生徒からの質問タイムが。
「装束の製造方法は？」「お値段はどのくらい？」
「トイレはどうやってするの？」
という素朴な疑問に
お答えいただきました。
「十二単」の驚愕の金額
に、会場は騒然！！

